

「景福寺資料」の構成と形態的特徴

矢野 正隆

- 資料群の全体像把握のための基礎データ整理。
- 現物資料が日本にあることの意味。
- コンテンツ研究(歴史学、言語学、文学、宗教学、....等)と、コンテキスト研究(図書館情報学、博物館学、アーカイブズ学...等)からみた「景福寺資料」

2

この共同研究(科研基盤研究B「東南アジア大陸部越僑コミュニティの基礎研究:ベトナム仏教寺院資料分析から」23K21975)は、故桜井由躬雄博士(1945-2012)がタイから将来した資料群の分析と、フィールド調査を大きな柱とするプロジェクトであるが、現段階では、この両者が、相互参照しながらおこなわれていると言い難い。これはひとつには、この資料群について、個別の詳細情報はあっても、全体としてどういうものなのか明確には示されていないことが、要因のひとつになっていると思われる。

本報告は、そもそも、この資料群がこういった特色をもつものであるかを、現時点で判明している情報を整理し、簡潔に示すことを目的とする。

その際にまず前提として踏まえておくべきは、この資料群が、複製物(紙、フィルム、デジタル等)ではなく、オリジナルの現物資料であり、これがタイの現地ではなく日本にあるということである。

この状況は、「研究」する立場からすれば、まず、複製物からは得ることのできない情報に容易にアクセスできることが注目されるであろう。いっぽう、「研究」を一旦措くと、現物がこの場にあるということは、これを「管理」する、つまり、現在だけでなく将来に亘り利用可能な状態に維持する、という立場が不可欠になる。つまり、この資料群に対する視点として、少なくとも、その内容の「研究」と、現物の「管理」という2つの立場からのものが想定される。

スライドではこの2つを、「コンテンツ」への視点と「コンテキスト」への視点、という仕方で区分しているが、前者については、既に言語学的研究[清水 2022]が、後者については古文書学(アーカイブズ学)的研究[小島・矢野 2022]で、その一端が示されている。

資料群の基礎データ

- 出所

漢字名: 勅賜鎮國景福寺

ベトナム語名: チュア・カインフォック Chùa Cảnh Phước

タイ語名: ワット・サマナーナムボーリハーン Wat Sommananam Boriharm

- 伝来経緯

桜井由躬雄(当時京大東南研助教授)、1978年1-11月のバンコク滞在中に景福寺「所蔵経典ほぼ全部の借覧とマイクロフィルム化を許された」...293種の目録とそのうち147種約14000コマのマイクロ化。高津茂によるマイクロフィルム化の整理(桜井1979: 73)

- 容量

桜井氏将来資料群の一部。物理単位98点。本紙は計7491枚。本紙部分の総延長61cm(枚数×料紙1枚の厚み、表紙や容器は含まない)。全体は書架3段分程度?

3

この資料群の出所は、タイ国バンコクにある大乘仏教寺院。

伝来経緯については、桜井 1979 で紹介されているが、そこで示されている情報と、実際にここ（京都大学東南アジア研究所）にある現物資料との関係については、不明点も残る [大野 2022]。

1978 年に撮影したとされるマイクロフィルムの行方はいまのところ不明であり、また、将来された現物資料は、当時桜井博士が目にした資料群の一部に過ぎない。

この資料群の分量は、およそブックトラック 1 台分くらい。

全体像/個体把握の難しさ

- 「種」(桜井1979: 73): 物理単位? タイトル? カウントの難しさ。
- 複数タイトルが同一物理単位に合冊されている場合 (WS007など)、同一タイトルで版の異なる場合・分冊されている場合あり。また複数の異なるタイトルを有するテキストを抜粋したものもある。タイトル単位でのカウントは困難。
- 零本あり (WS098など)、当初108物理単位→整理/調査により、98点に (WS092、093など)。
- 桜井目録カウント合計307点、1979紹介文に言う「293種」との差異。桜井目録中 (M) 表示131点、「147種」との差異。
- 零本や書誌情報のないもの → 1物理単位の範囲やタイトル確定の困難 (WS009など)。
- → 基礎データの把握 (コンテンツだけでなく、キャリアー、コンテキスト情報も)

4

まず問題になるのは、個体把握および全体の数的把握の困難。

複数タイトルが合冊されているものや、逆に 1 タイトルが分冊されているもの、さらに、複数の異なるテキストを抜き書きしたものなどが多くあるため、カウントの際には、タイトル単位と物理単位を区別することが肝要。

物理単位でカウントする場合、元々 1 つのまとまりであったものが複数に分離していることもあり、これら

を接合して復元することが不可欠。接合ではまず、内容や文字・図像の配置等が重要な情報になるが、それだけでは判明しないことも多々あり。そこで援用されるのが、紙質や製本等のモノを対象とする調査から得られた情報。

個々の資料の把握では、名称を付することが第一歩となるが、標題紙がない場合、困難なことも多々ある。たまたま標題紙が欠けているのか、それとも、もともとないのかで名称の付け方は異なるし、断片の場合は、接合されるかどうかでも異なってくる。さらに、伝来不明の鈔本も多くあり、どの範囲を1つの物理単位にするかということと、資料にどのような名称を付するかということとは、相互に切り離せない作業となる。

資料群の受入当初は、108の物理単位として把握していたが、こうした調査の結果、98にまとめられた。詳細は矢野ほか2022。

以下のスライドは、このような個体把握/全体像把握の過程で取得された情報をまとめたもの。逆に言えば、こうした調査を通じて初めて、現在のような資料管理が可能になった。

なお、この資料群には零本も含まれており、現時点での名称は、その零本の不完全な情報から付したものであるが、その出所（景福寺の原コレクション全体）から接合可能な断片が発見され、復元される可能性も皆無ではない。そのような工程も視野に入れるのであれば、この資料群と出所のコレクション全体との関係も把握しておく必要がある。

出所のコレクションについては、桜井1979では「293種」と記されており、この資料群は、当時桜井氏が現地で見たとのものの一部であることは明らか。しかし、逆に、この資料群には、同論稿に提示されているリストには見られないタイトルも含まれており（20点）、桜井氏作成の目録を、原コレクション全体と見做すこともできない。両者の関係をより正確に把握するためには、将来の過程に関するさらなる情報の取得や、現地調査との連携が必要になる。これは今後の課題。

コンテンツ情報

印字方法

印刷本	32タイトル	(刊本10、排印本10、平版印刷本10、油印本2)
鈔本	68タイトル	

※物理点数は98だがWS006、WS007は2タイトル合綴のため、タイトル数は100

本文言語

			例
漢字	60タイトル	(印刷27・鈔33)	
漢字・字喃	18タイトル	(鈔のみ)	WS008(手帖),018(双行注),001・007(逐字。書入?),005(本文字喃),015(異体字),044(巻末字喃。)
漢字・クオックグー	3タイトル	(印刷2・鈔1)	WS012(油印本),083(刊本),031(手帖)
漢字・タイ語	1タイトル	(印刷)	WS089(一紙)
字喃	15タイトル	(鈔のみ)	WS014・029(名称不詳、009と同一部分)023(手帖に書写?)
クオックグー	2タイトル	(印刷のみ)	WS016

まず、資料のコンテンツに関わる情報から。

例に掲げてあるWSで始まる記号は、この資料群に付された請求記号。これらの画像は既に、京都大学貴重資料デジタルアーカイブにて公開されており、この記号により実際の画像を確認できる (<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/collection/cseas/canhphuoc>)。

印字の形式としては、鈔本が印刷本のおよそ2倍。

言語の区分はやや複雑。ベトナム人がタイに建設した寺院で生成したコレクションであるため、まずベトナム語とタイ語が含まれ、仏教関連であるため、漢語が含まれる。さらに、その漢語をベトナム語で解釈する際、

現代ではクオックグーが使用されるが、クオックグーが普及する以前だとチューノムが使用されている。このように少なくとも4つの言語/文字の組合せになる。

注意を要するのは、ここに提示しているのは、「本文」で使用されている言語であるということ。印刷本であれば、どれが本文でどれが書入かは一目瞭然だが、鈔本の場合は、この分別は必ずしも明確であるとは限らず、筆跡や印字材料の調査が必要になる。書入の言語については、別のスライドで紹介する。

キャリアー情報

- 料紙(繊維、製紙...)
- 装幀(製本、綴じ...)
- 印字材料(インク、墨、鉛筆...)

6

現物資料でしか得られない情報（ここでは、料紙、装幀、印字材料）についてまとめる。

料紙の構成繊維

構成繊維	件数	割合	例
木材パルプ	39	38%	WS021,012(網目状の素地目),052(圧縮加工痕)
木材パルプ混合	9	9%	WS011(楮),037(竹),049(Dó),054(故布),081(亜麻),090(稲藁・竹)
竹	34	33%	WS060(刊本-實目42本-厚0.05mm),007a(鈔本-實目30本-厚0.10mm) ※
竹・稲藁	4	4%	WS086
楮	14	13%	WS007b(米粉),091(素地目あり。タイ製の複層紙か?)
楮・稲藁	1	1%	WS062
亜麻	3	3%	WS077
合計	104	100%	

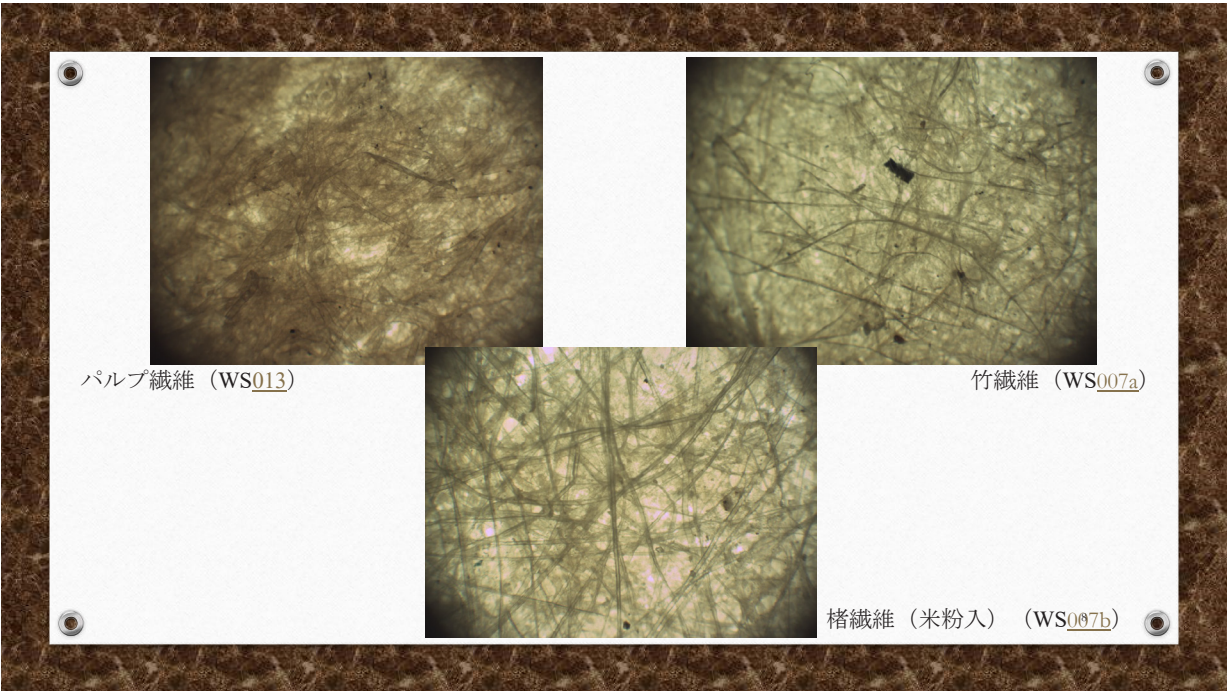
7

料紙を構成する繊維については、小島・矢野 2022 で詳細に論じたところ。

木材パルプに見られる、網目状の素地目 (WS012 など) は機械抄紙機の金網痕、ローラー等による圧縮痕 (WS052 など) とともに、機械抄紙の痕跡と判断される。

この資料群のうち、ゾー (Dó) 樹皮が用いられている資料は、1 点のみであった (WS049)。ゾーは沈丁花科に属する樹木で、その樹皮は伝統的にベトナムの高級紙として使われてきた。

竹紙は、中国では刊本に使われることが多いとされるが、この資料群では鈔本の方が多く、特徴として指摘されている。一寸あたりの簀の本数をみると、刊本より鈔本の方が少なくなっており、同じ竹繊維でも漉き方で用途を別にしていることが分かる。



代表的な繊維の写真。パルプは、幅の広いリボン状の繊維や、裁断された繊維で、竹は中央下にみられる孔紋導管で、楮は線条痕や結節といった特徴によって判断される。

装幀		
	数量	例
一紙	3タイトル	WS044,089,097
経折装	20タイトル	WS065
線装	(四針眼訂) 25タイトル	WS003, 019 (簡、左綴) ※縦平均24.2cm
	(五針眼訂) 8タイトル	WS050, 018 (簡) ※縦平均26.7cm
	(六針眼訂) 15タイトル	WS005, 001 (簡) ※縦平均24.7cm
洋装	14タイトル	WS016, 064 (無線綴)
紙縫綴	7タイトル	WS009
包背装(袋針金綴)	3タイトル	WS050
零葉	1タイトル	WS098
その他	4タイトル	WS012(無線)075(袋ステイプラー綴)085(五針眼線装上に紙縫四目仮綴)093(綴糸逸)

「線装」は、片面に印字した料紙を袋状にし糸あるいは紙縫で綴じるタイプ、「洋装」は、両面印字の料紙をステープラー等で綴じるタイプ。

「線装」の場合、糸の綴じ穴の数による区分も記している（穴が6つの場合は「六針眼訂」のように）。また、線装本の綴じ糸は、縦方向（天-地）だけでなく、横方向に冊子の背の部分を包むようにする形が一般的であるが、この資料群では、背の側には糸を掛けないものも散見した。これらについては、「(簡)」と記してある。

コンテキスト情報

- 印刷/書写情報(筆記者情報、紙背利用、書き損じ....)
- 所蔵/伝来情報(印章....)
- 読書情報 (書入...)

10

印刷部分のうち、コンテンツ以外の情報をまとめる。

書写情報

- 「謹筆明洪廣恩禪僧奉供」 (WS003_030) 「釋子明洪字廣恩證明, 法名守義奉供代願」 (WS082_025)
- 「沙彌(法名因緣法名入定) 誠心同敬寫 奉供」 (WS005_130, WS026_117, WS033_125) 「景福寺弟子因緣寫」 (WS018_012)
- 「阮氏孝奉供」 「潘永福奉寫」 (WS007_041)
- 「景福寺修道丁本福慈奉寫」 (WS009_009)
- 「承世姓杜字成功錄記」 (WS013_072)
- 「弟子法名神通奉寫五念卷壹/覺迷」 (WS014_023)
- 「景福寺法名善根奉」 (WS020_004)
- 「田氏尋奉墨, 信女吳氏敬奉送」 (WS028_063)
- 「弟子法名僧平定奉送」 (WS030_037) 「敕賜慶壽寺僧平定奉抄」 (WS077_042)
- 「臨濟正宗四十二世諱上覺下蘭/弟子法名覺蘭字法禪/越南臨濟源派法名覺蘭」 (WS031_026) 「林方連/陳玉池.../林樹美」 (WS031_031) → cf 印章「覺蘭」 (WS056_001 WS065_003)
- 「遊方僧人號智光敬抄」 (WS034_093)
- 「阮氏智本妙清奉敬」 (WS038_030)

11

特に鈔本については、その作成者（内容の作者ではなく、抄写、記録した者）が、標題紙等に記されているとは限らず、一目では見分け難いので、記されているページ数とともにリスト化した。

以下のスライドでまとめている印章と同じ作成者も見られる（WS031、WS056、WS065 など）。

書写情報(続)

- ・「廣福寺沙彌上無下染誠心奉寫」(WS041_064)
- ・「善行號記」(WS043_001)
- ・「黎文泰元生甲子年十八歳、阮氏復元生丁卯年十五」(WS046_039) 031以降は初学者の練習帳として用いられたか?
- ・「沙彌法名上智/法名甘泉抄写」(WS056_049)
- ・「法名僧善種抄本」(WS057_002)
- ・「阮文遇奉供/醫生黎泰岱奉寫」(WS073_026) → 印章「翠岸寺 รัชชัญญิ」(WS073_002)
- ・「信女武氏槎奉供」(WS078_026)
- ・「臨濟正宗法名清修本循理抄紗」(WS078_049)
- ・「信主(阮文仕、許氏演)奉供」(WS081_026)
- ・「法名本末」(WS085_039)
- ・「廣福寺法轉寫」(WS093_003)

書誌情報

- ・「鼓山常住所有經板目錄序開列」(WS060_168-170 同書肆既刊目錄)

12

印章(景福寺)



- ・「พระราชทานนามวัดสมณานัมมบริหาร (王によって名を賜った ワット・サマナーナムボーリハーン)」
- ・ WS005_005 WS026_004 WS033_006
- ・「勅賜/景福寺/白橋 พระราชทานนามวัดสมณานัมมบริหาร (王によって名を賜った ワット・サマナーナムボーリハーン)」
- ・ WS060_002
- ・「พระราชทานนามวัดสมณานัมมบริหาร (王によって名を賜った ワット・サマナーナムボーリハーン)」
- ・ WS089_004
- ・「景福寺」
- ・ WS018_001 WS039_016 WS081_004

13

印章(蔵書印)は、その資料の伝来をたどる上で非常に重要な情報となる。ここでは、寺院名と個人名に分けて一覧する。

まず景福寺のもの。形態やインクは複数種類あり、もう少し事例を蓄積すれば、使い分けや使用時期についてもある程度明らかになるであろう。

印章(景福寺以外)



- 「會慶寺 พระราชทานนามวัดมงคลสมาราม」
- WS016_001 WS092_032
- 別名ワット・モンコンサマーコムともいい、1776年に建立された。この寺院は安南派僧団に所属する二番目の寺院である。



- 「翠岸寺 วัดจันทน์」
- WS073_002 WS090_011
- 「別名ワット・チャヤブーミガーラームといい、サムバンタウォン郡チェースワニヨム小路に立地。ラーマ三世期の1840年頃に僧院として建立されたのに続いて、ラーマ四世期の1862年にシーマー結界処を授かって寺院となった。その後、ラーマ五世にチャヤブーミガーラームの寺名を授かった。(Sripa 2022: 105)」



- 「救賜興國普福寺 พระราชทานนามวัดกุดเสมาราม」(王によって名を賜ったワット・グソンサマーコン)
- WS087_002
- 「サムバンタウォン郡ラーチャウォン通り近辺に立地し、1840年に建立され、1857年シーマー結界処を授かり寺院となった」(Sripa 2022: 104)



- 「萬福堂」
- WS045_003

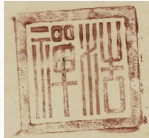


- 「慧靈山寺」
- WS083_002

14

印章には景福寺以外のものも含まれており、他寺との文化的ネットワークが窺われる。この資料群は、一寺院で完結したものとしてではなく、他の寺院に残された資料も含めて、より広い文脈の中に位置付ける必要があることを示す情報である。

印章(個人...)



- 「浩禪」
- WS053_008



- 「覺蘭」
- WS056_001 WS065_003



- 「南榮金章寺和尚 Phom-Penh Kim Chương Tự Hòa Thượng」
- WS083_055

15

個人蔵書印。

書入(本文:漢字—60タイトル)

漢字	1タイトル	WS013
漢字、クオックグー	2タイトル	WS027,065
漢字、クオックグー、タイ語	2タイトル	WS062,057(クオックグー:インク、タイ語:鉛筆)
漢字、タイ語	3タイトル	WS039(メモ・句点),066(巻末),092(漢字読音?)
字喃	3タイトル	WS007b,017,037(巻末)
字喃、クオックグー	2タイトル	WS003・004(同一手?)
クオックグー	7タイトル	WS011,034(「上下」)043(手帖),049,088(逐字),091(手帖),097
クオックグー、タイ語	2タイトル	WS077(インク焼・鉛筆),082(消痕)
タイ語	7タイトル	WS019(逆綴),030,056,072,078,081・087(逐字)
なし	31タイトル	

16

書入は、資料が生成されたあと、何時誰がどのようにその資料にアクセスしてきたかを知る上で、重要な情報となる。

ただし、手書き資料の場合、雑多なメモ帖のようなものも含まれており、印刷本のように、まず本文があって、あとから書入がなされた、という風に、明確に区分できるものと、できないものを分けて考える必要がある。

ここでは、本文として、ある程度の分量を有する書写対象が別にあるものを掲げた。書き損じがあることは、その一つの目印だが、これは書入には含めていない。(たとえばWS002の19コマ左頁の3行目には本文の修正痕があるが、ここでの書入にはカウントしていない。)

こうして見たとき、本文が漢字の資料60タイトルのうち、書入があるものはおよそ半数。文字としては、クオックグーのみ、タイ文字のみの書入のあるものがそれぞれ7タイトルずつ、チューノムは3タイトル、漢字が1タイトルで、それ以外は複数の文字種が使われてる。

内容的には、漢字の読音あるいは意味を示したもので、すべての文字に逐一書入しているものもある(WS008)が、多くは部分的に、おそらく音や意味の分からない文字にだけ記してある。

また、書写材料(墨、インク、鉛筆など)や筆跡の相違も、当該資料が何時誰によってアクセスされたかを知るための情報として重要。

書入(本文:漢字+字喃—18タイトル)

漢字、字喃	1タイトル	WS015(巻末)
漢字、タイ語	1タイトル	WS010
字喃、タイ語	1タイトル	WS005(タイ語・字喃)
字喃	1タイトル	WS086(掲)
クオックグー	1タイトル	WS045(001-文書類, 031-経典)
タイ語	2タイトル	WS007a(字喃も書入?)018(表紙)
なし	11タイトル	

書入(本文:字喃—15タイトル)

漢字、タイ語	1タイトル	WS020(漢字・タイ語)
字喃、タイ語	1タイトル	WS085
クオックグー、タイ語	1タイトル	WS093
タイ語	2タイトル	WS009,014(巻末)
なし	10タイトル	

17

本文が漢字とチューノムからなっているものは18タイトル、チューノムのみのものが15タイトル。書入があるものは、それぞれ7タイトル、5タイトル。

WS093は、本文チューノムの仏典に対して、クオックグーおよびタイ文字による書入が全体に亘って付されており、複数言語のテキスト研究という意味で、まとまった情報を含む資料のひとつと言える。

紙背利用

	例
印刷故紙	WS021(己卯年三篇通書)
抄写故紙	WS002_035, 003_031, 004_017

修正/修復痕

	例
消去/加筆	WS002_019他(墨消), 043_002-(上書), 082_002-(消ゴム), 091_003-(加筆)
「上下」「前後」反転	WS009_007(cf. 029_009)・091_017(上下), 026_031(前後)
貼紙	WS003_003-, 007_017, 013_013, 057_004-(複数頁同一箇所), 092_015(複数字)
裏打	WS011_033~(『中原報』中華民国35年...)

18

故紙の紙背利用の例としては、WS021が最もまとまった形で残っている(暦占い)。

本文の修正例としては、墨で上から消したり、消ゴムを使う場合、貼り紙をする場合が各処でみられる。

そのほか、上下反転の例としては、WS009とW029が同一のテキストなので比較すると分かりやすい。前者の7コマ左ページの1行目冒頭2字「羅意」とある右横に「下上」と書入がある。この「下上」の意味するところ、「羅」が下で「意」が上であるということは、後者の9コマ左ページの1行目冒頭2字が「意羅」となっていることから分かる。

修復痕では、裏打ち紙に新聞紙を用いた例が目立つ(WS011『中原報』など)。

まとめ

- 同一出所コレクションからみる書物の流通と共有(鈔本—原本の存在)
- モノの素材からみる資料の形成・伝来過程
- 読書の痕跡からみる資料利用の実態
- ...コンテンツ研究の補助的役割

19

本報告では、この資料群の性格に関する分析にまで立ち入ることはせず、その前提として、そもそもこの資料群からどのような情報が得られるのかを整理した。

資料本文に記されている内容だけでなく、そのモノの素材・構造、アクセスの痕跡に焦点を当てることで、日本に将来されるまでの経過、つまり、何時何処でどのようにして作成され、移動し、どのように利用されてきたかということに関する基本的な情報が得られた。

ただしこの資料群は、同一出所のコレクション全体の一部に過ぎず、さらに、他出所（他の寺院など）のコレクションも含まれており、ここから得られた情報は、より広い文脈で位置付ける必要があることが、再確認できた。

現段階では、こうした情報から個々の資料のまとまりを確定しタイトルを付すなど、資料研究よりは資料管理の面で大きな意味を持ったことが指摘できる。

参考文献

「景福寺資料」京都大学貴重資料デジタルアーカイブ, <https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/collection/cseas/canhphuoc>

大野美紀子「序―特集に寄せて―」『東南アジア研究』60(1): 5-16, 2022.7

桜井由躬雄「在泰京越南寺院景福寺所蔵漢籍字喃本目録」『東南アジア―歴史と文化―』1979(8): 73-117, 1979-04-25

清水政明「漢喃版『佛説天地八陽經』に見る字喃の方言性」『東南アジア研究』60(1): 40-57, 2022.7

小島浩之・矢野正隆「漢字・字喃經典への料紙調査の応用」『東南アジア研究』60(1): 17-39, 2022.7

矢野正隆・小島浩之・大野美紀子「〈付録〉京都大学東南アジア地域研究研究所所蔵「景福寺資料」目録」『東南アジア研究』60(1): 58-70, 2022.7

Sripana, Thanyathip; 西田昌之訳『ベトナム人と安南派仏教(アンナムニカーイ)の来泰、およびラッタナコーシン王朝初期におけるワット・サマナーナムボーリハーンの建立』Japan-ASEAN Transdisciplinary Studies Working Paper Series, No. 13, 2022

矢野正隆・小島浩之「「景福寺資料」状態調査報告：東南アジア地域資料管理のための基礎データ」『東京大学経済学部資料室年報』14: 71-79, 2024.3